

IAUD Newsletter vol.11 第4号(2018年7月号)

1. 衣のUDPJ ミツフジ(株)ショールーム訪問と説明会開催報告..... 1
2. 「IAUD アワード 2017」受賞紹介④..... 4
3. 「第1回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」開催のご案内..... 16
4. IAUD 7 月の予定..... 17

最先端のウェアラブル IoT 製品を体験

活動報告:衣のUDPJ ミツフジ(株)ショールーム訪問と説明会

誰もが着る喜び、生きる喜びを実感できる社会づくりを目指して活動している衣のUDPJは、ウェアラブルIoT企業であるミツフジ(株)東京本社の「hamon®ショールーム」(東京・日比谷)を5月17日(木)に訪問しました。

当日は同PJメンバーの他、IAUD研究部会の有志ら8名が参加し、hamon®の製品特徴やサービス内容の説明、ショールーム見学のほか、参加者間で活発な意見交換も行われるなど、大変有意義な内容となりました。

今号のNewsletterでは説明会の様子を同PJの森秀男主査が報告します。



ウェア製品が並ぶ hamon®ショールーム

生体情報を取得できる導電性銀繊維を開発

当日はミツフジ(株)セクター営業本部法人営業部主任の本間遼介氏から、同社のこれまでの開発製品の流れ、hamon®の製品特性とクラウド・サービスなどについて説明がありました。

京都を本社とする同社の原点は、日本の伝統織物の西陣織です。

優れた布を織る技術と繊維の知見がベースとなって、画期的な導電性銀繊維 AGposs®の開発に成功し、高精度な生体情報の取得・解析が可能となりました。

導電性銀繊維 AGposs®のおもな歩み

2008年:国際宇宙ステーション宇宙飛行士のアンダーウェアの素材として採用された。

2012年:北里大学 医療衛生学部 医療工学科と戦略的パートナーシップを結ぶ。

2018年:京都大学などと産学共同の研究開発を進める。

”着る”生体情報マネジメントを実現した hamon®

同社は 2016 年に導電性銀繊維 AGposs®を使用した衣服型ウェアラブル製品 hamon®を発表しました。

AGposs®で作られた素材が、ウェアの裏の部分(心臓のすぐ下の位置)に、横に長い四角形に 2 つ接着されて、着用者の生体情報を取得します。

その情報がトランスミッターを通してクラウドに上げられ、企業が従業員の健康管理や、個人や家族がスマートフォンのアプリによって着用者の体調を確認できるシステムとなっています。

「ウェア」「トランスミッター」「アプリ&クラウド」で生体情報をモニタリング

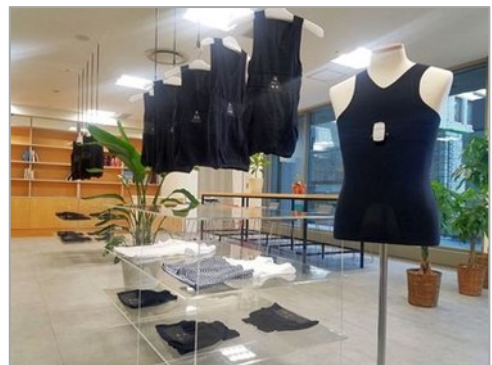
①hamon®の構成要素

ウェア、トランスミッター、アプリ&クラウドの 3 要素が一体となった、ウェアラブル IoT(Internet of Things。様々なモノがインターネットにより相互に制御する仕組み)の製品システムです。

世界でも最高レベルの機能性を持つ AGposs®使用により、精緻なデータ取得と快適な着心地を実現しました。

トランスミッターをウェアの胸元にセットして(右写真ウェア中央にある白い器具)、生体情報を発信します。

トランスミッターは取り外し可能で、小型・軽量化、長時間使用を実現しました。充電式で防水機能も備えています。



hamon®のウェア製品

また、スマートフォンで手軽にモニタリングできるアプリを自社開発し、ミツフジ・クラウドとの連携で情報の蓄積・解析も可能です。

遠隔地から管理者が使用者の生体情報を確認できます。

②モニタリングできる生体情報(開発中のもの含む)

心電・心拍、筋電、呼吸数、加速度、ジャイロ、温度・湿度、呼吸

③「ヒューマンセントリック」なウェアラブル

生活者である個々人に焦点をあてた「ヒューマンセントリック」が特性で、人間とその生活に最も関心を注ぎ重視します。

すべての企業活動の原点は、生活者であり顧客としての「人」です。個々人にフォーカスすればするほど、その広がりや拡張され、異なった業界や企業の枠を超えていきます。

様々な社会課題を解決

①従業員の見守りや体調管理

工場の生産ラインのワーカーや、トラックやバスのドライバー、建設・工事の現場の従業員の体調管理に有効です。

適切な休養を促し、現場における安全管理ができます。

今回の説明時、企業の従業員の健康状態がクラウド機能によってパソコンで一覧できるシステムに、参加者から驚きの声があがりました。

②介護・福祉

介護施設などでの要介護者の健康管理や、離れて暮らす高齢者を家族が見守ることも可能です。

③スポーツ・フィットネス関連

プラクティス・ウェアとして着用し、体調などのコンディショニングに活用できます。

その他、将来的には家族による子供の見守りケアなど、非常に幅広い用途を持っていると実感しました。

今後もウェアラブル IoT に注目

今回の訪問で、現在における最先端のウェアラブル IoT 製品の機能とシステムを直接に体験できたことは非常に有意義でした。

この製品は以下にあるあらゆる生活者に有益であり、使用する人には大きな恩恵をもたらす UD の製品・システムと考えられます。

- 1.働くすべてのワーカー（従業員や社員、公務員、教員など）
- 2.若年層から高齢者まで幅広い年代
- 3.健常者から身体障害者や知的障害者まで、あらゆる人々に恩恵がある
- 4.その他のニーズを有するすべての生活者



カラフルでおしゃれなウェア製品も多い

最近のウェアラブル製品開発の傾向は、ウオッチ型やブレスレット型から、より精緻な生体情報が得られる「着衣型」に移行してきています。

衣の UDPJ では、画期的なウェアラブル IoT としての「衣とアパレル」の新しい次元の幕開けを、強い関心と期待を込めて今後も注視して行きます。

※ミツフジ(株)の URL: <https://www.mitsufuji.co.jp/>

※hamon®の URL: <http://www.hamon.tech/>



持続可能な共生社会を実現する UD 活動を提案 「IAUD アワード 2017」受賞紹介④: 金賞受賞の取り組み

「IAUD アワード 2017」受賞紹介の 4 回目は、金賞 2 件の取り組みを紹介します。

インタラクションデザイン部門金賞を受賞したパナソニック(株)の「車載用高精細ワイドディスプレイミラーレスモニターシステム」について、IAUD アワード 2017 審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)は、「ドライバーの全周囲的な意識を向上させる近未来の改善策。このシステムは、特に高齢のドライバーに自信と操作能力をもたらし、事故を抑制する真の可能性を秘めている」と評価しています。

事業戦略部門金賞を受賞したタカラトミーグループの「おもちゃのユニヴァーサルデザイン『共遊玩具』の開発と活動推進のための仕組みづくり」については、「30 年にわたる共遊玩具の開発と推進への取り組みが感動的。使いやすいおもちゃのデザイン推進と、UD の原則と実践に重心を置いたブランド価値構築で長年のコミットメントと実績を持つ同グループを高く評価した」と講評しています。

今号の Newsletter では、「車載用高精細ワイドディスプレイミラーレスモニターシステム」をパナソニック(株)の武藤完志氏に、「おもちゃのユニヴァーサルデザイン『共遊玩具』の開発と活動推進のための仕組みづくり」をタカラトミーグループの高橋玲子氏に報告していただきます。



「IAUD アワード 2017 発表会／表彰式 & プレゼンテーション in ミュンヘン」にて

※「IAUD アワード 2017」受賞紹介①②③はこちらをご覧ください。

IAUD Newsletter vol.11 第 1 号(2018 年 4 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/9754/>

IAUD Newsletter vol.11 第 2 号(2018 年 5 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/9803/>

IAUD Newsletter vol.11 第 3 号(2018 年 6 月号) <https://www.iaud.net/newsletter/9937/>

※「IAUD アワード 2017」受賞結果はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/9631/>

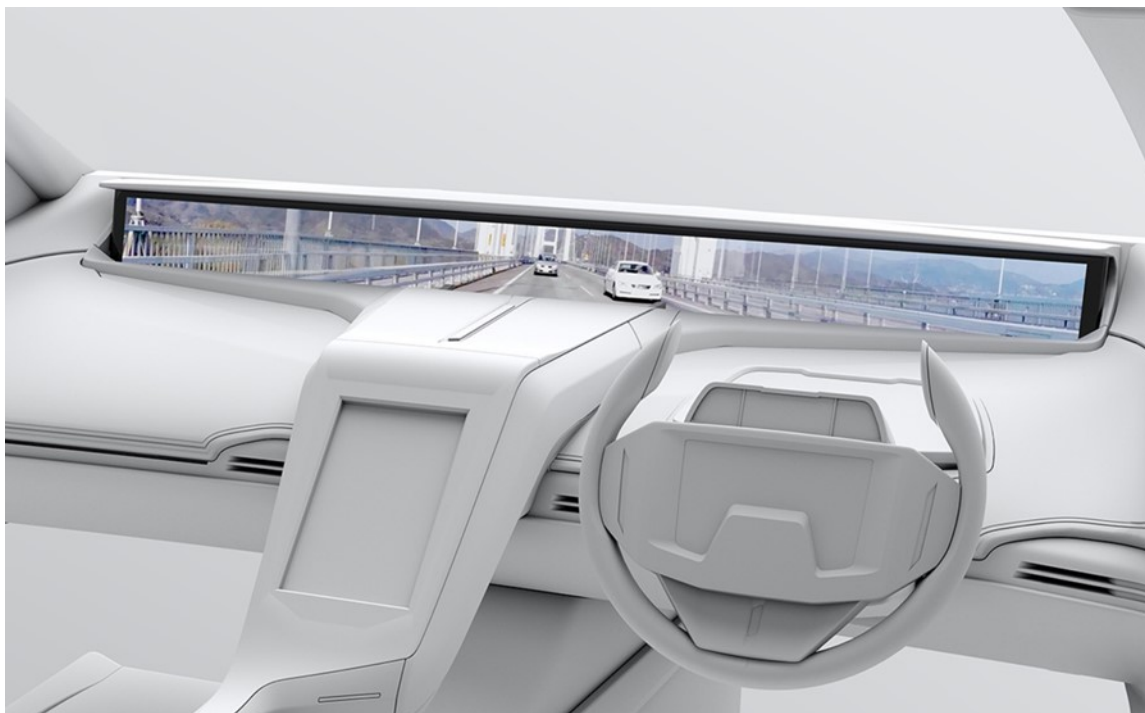
※「IAUD アワード 2017」審査講評はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/9634/>



あらゆるドライバーに安心・安全、快適なドライブ環境を
インタラクティブデザイン部門金賞：車載用高精細ワイドディスプレイミラーレスモニターシステム
パナソニック株式会社

パナソニックの車載機器の取り組み



車載用高精細ワイドディスプレイミラーレスモニターシステム

パナソニックは 1950 年から、市販向けや多数のカーメーカー向けのカーオーディオやナビゲーション、アクセサリのサプライヤーとして、67 年の永きに亘り車載機器を提供して参りました。

1950

2018



1950 年から車載機器を提供

そして、昨今のクルマ業界におけるトレンド「自動運転」「IoT コネクト」「クリーンエネルギー」においても、家電で培った当社の技術をベースに様々なお役立ちが可能と考えています。

Autonomous Vehicles



IoT Connection



Clean Energy



3 つのトレンド「自動運転」「IoT コネクト」「クリーンエネルギー」

さらに、以下の 3 つのビジョンで、「快適・安全・環境」の実現に不可欠なサプライヤーを目指しております。

Comfort:「快適な未来のクルマ社会を実現する最先端カーエレクトロニクス」

Safe Society with Vehicles:「安心・安全なドライブを支えるソリューション」

Consideration for the Environment:「高効率・高性能なクリーンエネルギーを実現する、電子部品や車載用電池の開発」



Comfort



Safe Society with Vehicles



Consideration for
the Environment

3 つのビジョン「快適・安全・環境」

そのビジョンを具現化する 1 例として、3 年前に当社デザイン部門からの先行開発活動にて、快適・安全の新しいカーコックピットを提案したことから、このディスプレイシステムの開発がスタートしました。

安全なコックピットを実現

昨今の多様な自動車事故が発生している中、運転支援の新しい仕組みづくりが社会背景として求められています。

事故の無い社会、クルマの安心・安全、快適なドライブ環境の実現を目指し、高画質 4K 規格（横幅）のワイドディスプレイと、ミラーレスカメラの画像を見やすく表示するインターフェースを組み合わせたカーコックピットシステムを開発しました。

1つのワイドディスプレイに3つのミラー画像を集約



3つのミラー画像を集約したワイドディスプレイ

従来は3か所にある鏡（サイドミラー／ルームミラー）を、1つのワイドディスプレイに集約する事で、見落としがちだった周辺の状況を把握しやすくしました。

また、運転中の車窓の景色を遮ることなく、かつ視線移動が少なくなるよう、ダッシュボードに適切な画面サイズと配置を行いました。

180度パノラマビューで圧倒的な情報量を実現



180度パノラマビューのワイドディスプレイ

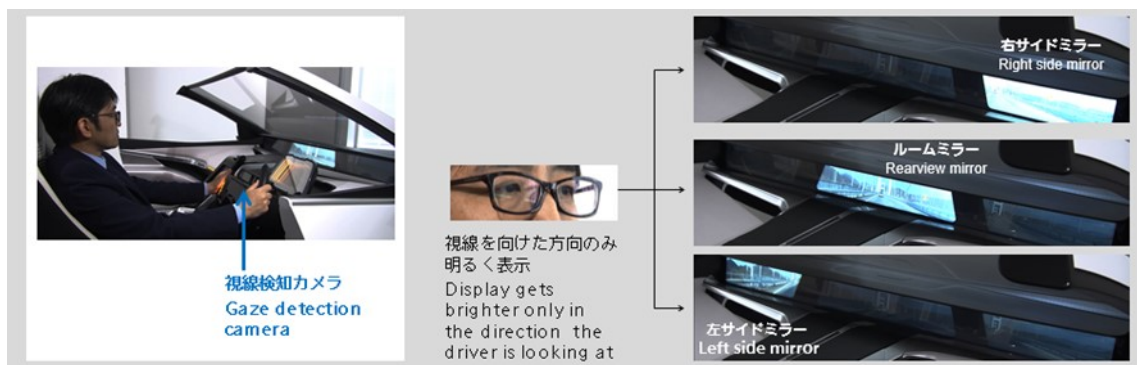
3つの画面を前方にひとつに集約することで、安全性が高まると共に、180度パノラマビューという死角の無い、より安全性の高い視点も提供できます。

このカーコックピットシステムは、高齢者を含むあらゆるドライバーの運転時の安心・安全に貢献します。

視線検知機能で視線を向けた方向だけ明るく表示

ドライバーモニタリングカメラの視線検知機能を活用し、ドライバーのしているミラー画像のみ明るく表示させ、画像を確認しやすいようにするアプリケーションを用意しました。

スイッチなどによる操作をしなくても、画面の切り替えがスムーズに行えます。



視線検知機能を活用

ミラーレスカメラとの連動性・将来性に着目

大型のワイドディスプレイを搭載するにあたり、実物大の稼動プロトタイプによるユーザビリティ検証や、カーメーカーなどとのヒアリングを重ねながら、設置されるクルマへの最適解を模索しました。

このシステムは、「安心・安全」の提案に特化した点が新規性・社会的価値があると考えています。

UX/UI デザイン、プロダクトデザインの多岐に渡る視点から開発を進めました。

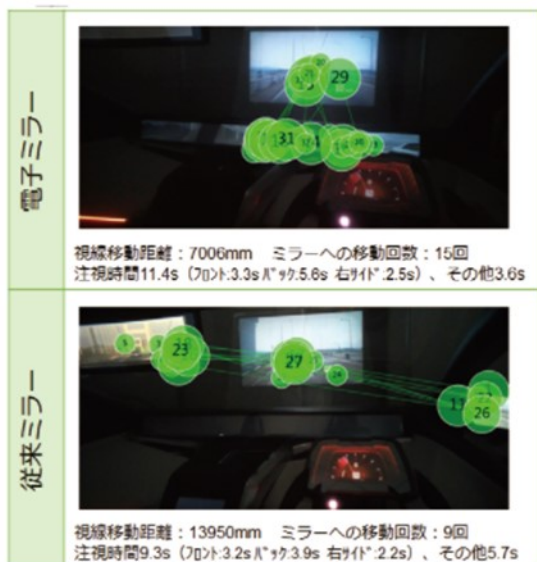


実物大の稼動プロトタイプで検証

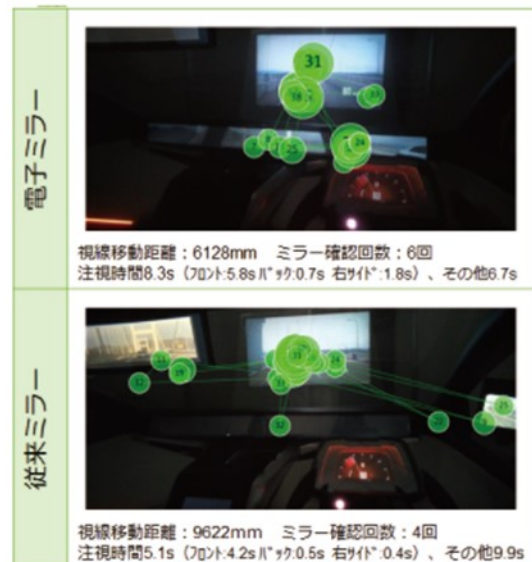
車線変更時の周囲確認のユーザビリティ検証

視認性・使用性検証について、車線変更時の周囲確認を電子ミラーと従来ミラーでそれぞれ実施して比較しました。

複数の被験者の方にご協力頂き、ユーザビリティ検証を実施しました。

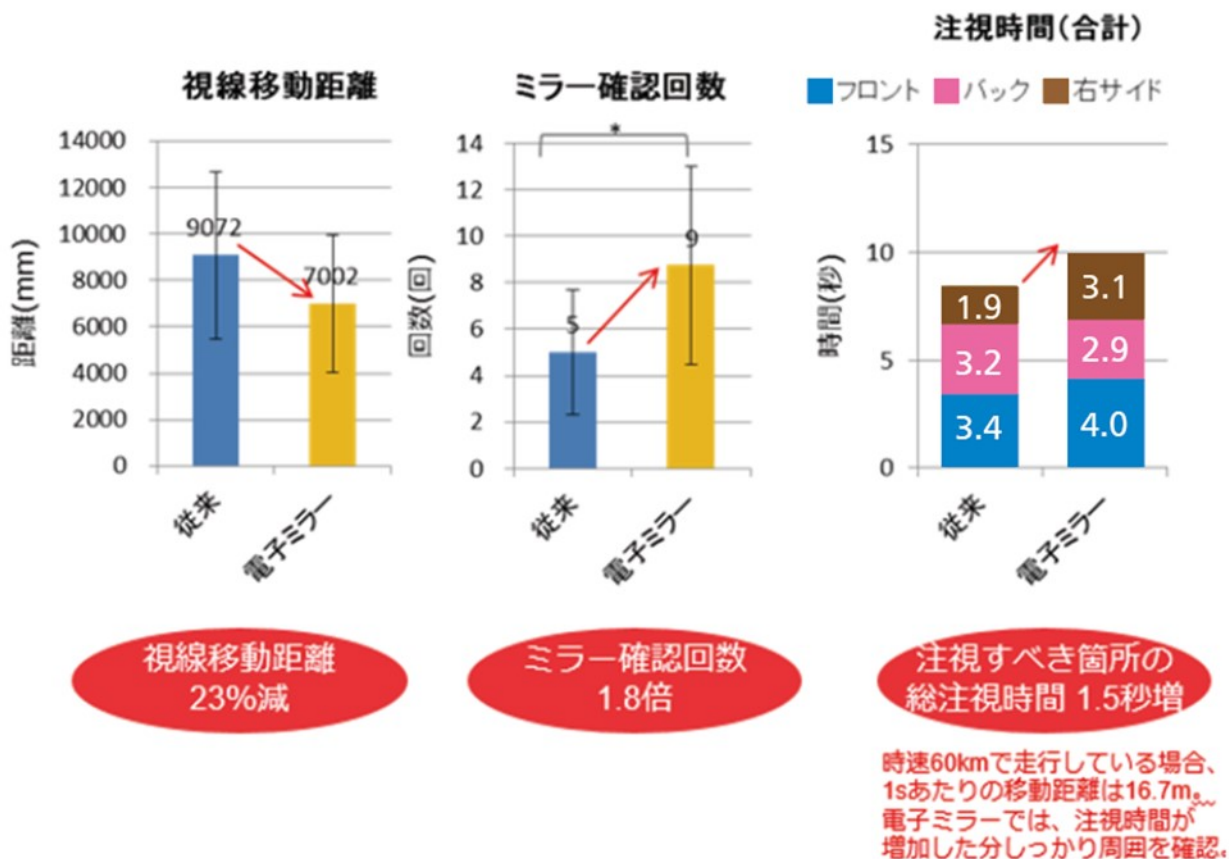


○被験者A



○被験者B

車線変更時の周囲確認のユーザビリティ検証を実施



ユーザビリティ検証結果

視線計測結果より、電子ミラーでは視線の移動距離が減少しました。(視線移動距離 23%負担減)

また、ミラーの確認回数(1.8倍)、および注視時間も増加傾向(1.5秒増)にあり、従来ミラーよりしっかり周囲を確認できています。

より安心・安全、快適な社会の実現に向けて

初期提案から、様々なブラッシュアップをはかってプロトタイプとして具現化したのが今回のデザインです。

しかし、このディスプレイシステムはここで完成ではありません。これだけの容積をコクピットに収める為には、車自体の構成にも大きな変化が必要です。

今後、カーメーカーと共に未来の車の姿を、共につくり描いていければと考えております。

今回の受賞はまさに我々のチャレンジへのご支援と、これからの後押しする力と感じております。

今後もパナソニックグループとして、安心・安全、快適な社会の実現に向け、貢献して参ります。



おもちゃが人と人をつなげるものに

事業戦略部門金賞：おもちゃのユニヴァーサルデザイン「共遊玩具」
の開発と活動推進のための仕組みづくり
タカラトミーグループ

障害のある子どもたちも一緒に楽しめる「共遊玩具」

目または耳に障害のある子どもたちにも楽しく遊べるおもちゃで、一般市場向けにつくられ販売されているものを「共遊玩具」といいます。

共遊玩具には、目の見えない友だちや耳の聞こえない友だちとも一緒に楽しく遊べるよう、模様やキャラクターを触れても楽しいレリーフにしたり、表示される文字や数字を声や音でも表現する、音に加えて振動や動きでも遊びを盛り上げるなど、様々な工夫がされています。

おもちゃを「視聴覚障害児向け」に限ってつくってしまうと、市場が小さく一般の玩具メーカーの事業としては成り立ちにくいだけでなく、価格も高額になり、買う側にも大きな負担を強いることとなります。

そこで、一般向けに開発するおもちゃにできるだけ工夫を取り入れ、目や耳の不自由な子どもたちも一緒に楽しめるようにしていこう、というのが「共遊玩具」の活動です。



「共遊玩具」開発推進が業界全体の活動に

タカラトミーグループでは、1980年に障害のある子どもたち専用の玩具の研究開発部門として、「ハンディキャップ・トイ研究室」を社内を設置しました。そこで開発されたおもちゃは、対象となる子どもたちのニーズに誠実に応え、非常に喜ばれたにもかかわらず、対象者が少数であったことから事業として利益を生み出すことは難しく、社会の不況に伴って継続が困難になりました。

そこで、1990年には、専用ではなく一般市場向けに「目や耳の不自由な子どもたちも楽しく遊べるよう工夫された玩具」の開発と販売を開始しました。当社で始まったこの活動は、玩具業界全体の活動として一般社団法人日本玩具協会に引き継がれ、現在では「共遊玩具」という名称の下、その開発推進は玩具業界の大切な活動の一つと位置づけられています。

「共遊玩具」認定と共通マーク

日本玩具協会では、申請のあったおもちゃについて、視覚や聴覚に障害のある子どもたちにも本当に楽しめるかどうかをモニター審査しています。この審査に合格したおもちゃが、「共遊玩具」として認定されます。

共遊玩具は一般の玩具売場で販売されているので、可能なかぎり、そのパッケージに、目の不自由な友だちともいっしょに楽しめるおもちゃには「盲導犬マーク」、耳の不自由な友だちともいっしょに楽しめるおもちゃには「うさぎマーク」を表示することになっています。また、この活動の事務局である「日本玩具協会」から年一回、メーカーの枠を越えた共遊玩具カタログが発行され、希望者に配布されています。

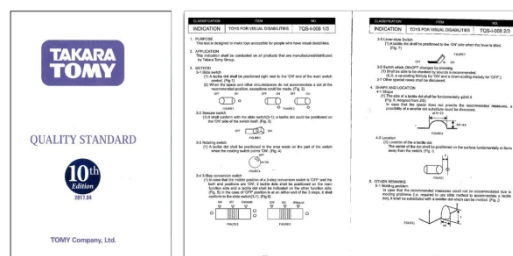


「盲導犬マーク」と「うさぎマーク」

「共遊玩具」基本的配慮点の社内品質規定

タカラトミーグループでは、商品開発の際に参照される社内品質規定に、以下のような「共遊」のための基本的配慮事項を定め運用しています。

- ・スイッチのON側やテンキーの「5」に凸点を刻印
- ・電池ボックス開閉のためのネジ穴の周囲に凸状リングを刻印
- ・ソフトスイッチ「ON」時に鳴動



「共遊」のための基本的配慮事項を定めた社内品質規定

これにより、その都度一から検討しなくても、より扱いやすい商品を開発することができます。また、遊び自体が共遊できるか否かを問わず、上記の品質規定を適用することによって、障害のない子どもを育てる障害のある保護者にとっても安心して操作できるおもちゃを生み出すことが可能となります。

「共遊」のための工夫ポイント

当社では、目や耳の不自由な友だちも楽しく遊べるおもちゃであるように、商品特性に応じて、下記の工夫を随時取り入れています。

- ・おもちゃの動きや状況等を言葉や音で伝える機能を、「遊び」の一部として商品に盛り込む
- ・色違い等の識別が必要な玩具については、触って識別できるマークの刻印や、触角識別用シールの無償提供を行う
- ・文字学習用玩具や種類の識別を要する玩具について、点字の刻印あるいは貼付用点字シールの無償提供を行う
- ・音の有無や音量が見てわかる機能、音声の内容の文字表示機能、状況に応じて振動する機能等を「遊び」の一部として商品に盛り込む

「共遊玩具」開発の継続と推進

当社では、共遊玩具の開発を継続・推進するために、社内での開発促進活動に留まらず、社会や子どもたちに向けて広く周知活動を行うと共に、「商品情報」や「取り扱い説明書」についても、より多くの方々にご利用いただけるよう工夫を重ねています。

開発促進活動としては、社内に視覚障害当事者を含む複数の担当者を置き、外部の専門家の方々からのご助言も仰ぎながら、社内向け開発セミナーや、開発のためのサポートを積極的におこなっています。

また、玩具本体への工夫に加え、視覚障害のある方々を念頭に置きながら商品担当者が自身の肉声で商品情報を楽しく伝える「音のカタログ」や、図解やイラストを見ることの難しい方々に玩具の操作の仕方を言葉のみで伝える「テキスト版取り扱い説明書」を公開しています。

社会に対しては、おもちゃを活用した「共生社会」に関する出張授業をさまざまな小学校で実施するほか、大学生や社会人向けの障害理解促進講座を積極的に行い、「共遊玩具」が活かされる土壌づくりに努めています。



声で商品情報を伝える
「音のカタログ」



小学校でのおもちゃを活用した「共生社会」出張授業

「共遊玩具」による共生社会実現にむけて

現在、タカラトミーグループでは常時100シリーズ以上の共遊玩具を流通させています。また、これまでの活動に加え、「普段簡単に触ることのできない生き物や乗り物等の形や動きを視覚障害のある人に伝えることができる」という、おもちゃの役割に着目したミニチュア玩具の貸出サービスにも着手しています。

おもちゃにはさまざまな種類があり、必要な配慮ポイント也多岐にわたります。対象とする障害に特に「目」と「耳」を選んでいるのは、比較的標準化しやすい配慮ポイントがあること、特に視覚に障害のある子どもたちが、楽しめるおもちゃの種類の選択肢が少なく困っている現状があったことによります。

当社は今回の受賞を励みに、おもちゃが人々を分かち合えるものではなく、人と人をつなげるものであってほしいという願いの下、共遊玩具を通じた共生社会実現にむけ、その開発と普及活動を継続してまいります。

※タカラトミーグループ「共遊玩具」の詳細はこちらをご覧ください。

<http://www.takaratomy.co.jp/products/kyouyu/>

タカラトミーグループの「共遊玩具」商品例

マイルームロボ

商品名:「マイルームロボ」
 希望小売価格:9,800円/税別
 発売元:株式会社タカラトミー
 遊び方:お部屋の環境に合わせて
 いろいろなおしゃべりをするロボット
 です。音、明るさ、気温、湿度、人の気配、
 テレビのリモコンに反応します。
 おでこを優しく触ってもおしゃべり
 してくれます。



© TOMY ©DeAGOSTINI

遊び方: お部屋の環境に合わせていろいろなおしゃべりをするロボットです。音、明るさ、気温、湿度、人の気配、テレビのリモコンに反応します。おでこを優しく触ってもおしゃべりしてくれます。

「共遊」のための配慮点:

- 電池ボックスを開くためのビス穴の周囲をリング型の凸で表示
- 操作ボタンには触って識別しやすい形状を採用
- 操作手順等をすべて玩具の音声案内
- 図やイラストを見ることの難しい方も言葉だけで内容が把握できる「テキスト版取り扱い説明書」を公開
- 遊び方やおもちゃの音を商品担当者自身が紹介した「音のカatalog」を公開

(2018年日本おもちゃ大賞 優秀賞受賞)

商品名:

「ムニムニドレミファキヤット」

希望小売価格:各1,200円/税別

発売元:株式会社タカラトミーアーツ

遊び方:本体裏面のスイッチを凸点(2ヶ)に合せて
背中を押すとネコの鳴き声で単音が流れ、複数の
ドレミファキヤットを使って自由に音楽を演奏
できます。本体裏面のスイッチを凸点(1ヶ)に
合せて背中を押すと、単体で、それぞれの
ドレミファキヤットに内蔵された一曲を
演奏できます。



「共遊」のための配慮点:

- ・ネコの鳴き声によってスイッチをオンにしたことが分かるよう工夫
- ・スイッチの各モードを異なる音(ネコの鳴き声)で表示
- ・スイッチのオン側に、機能に応じて異なる数の凸点を配置
- ・電池ボックスを開くためのビス穴の周囲をリング型の凸で表示
- ・触っても玩具がずれたり動いたりしてしまわないよう工夫
- ・ご要望に応じて各音名の点字シールを配布
- ・遊び方やおもちゃの音を商品担当者自身が紹介した「音のカタログ」を公開
(2016年日本おもちゃ大賞 大賞受賞)



© T-ARTS



カメラとゲームで ワクワク遊ぼう。
小学館の図鑑 NEOPad
しょうがくがくんのずかんネオパッド
乗りもの+くらべる編

© TOMY

© 小学館

「共遊」のための配慮点:

- ・音量の状態を目で見てもわかるように表示
- ・音声の有無や内容を画像と字幕で表示
- ・オン/オフ切替ボタンの近くに凸点を配置
- ・電池ボックスを開くためのビス穴の周囲をリング型の凸で表示



商品名:

「小学館の図鑑NEOPad 乗りもの+くらべる編」

希望小売価格:15,000円/税別

発売元:株式会社タカラトミー

遊び方:「小学館の図鑑NEO」の「乗りもの」の図鑑から
400種類の乗りものと、「くらべる図鑑」「もっとくらべる図鑑」
から約180種類のコンテンツをセレクトし、重さや速さなど
様々な視点で比べることができる、図鑑タブレットです。
乗りものの遊びのアプリが100種入っています。
またカメラが付いているので、自分で撮った写真を保存し、
図鑑ページに加えることも出来ます。

商品名:

「リカちゃん 家具シリーズ LF-03 おそうじだいすき」

希望小売価格:1,500円/税別

発売元:株式会社タカラトミー

遊び方:リカちゃんハウスと一緒に遊べるリカちゃんサイズの掃除機です。スイッチを押すと、本物みたいなおそうじきの音とともに、おもちゃのゴミが中にくるくるまわります。



「共遊」のための配慮点:

- 掃除機の動きを、音だけでなく、くるくる回るゴミの動きで楽しく表現



© TOMY

※人形は含まれておりません。

商品名:「トミカ4D シリーズ」

希望小売価格:各1,600円/税別

発売元:株式会社タカラトミー

発売:10月発売予定

遊び方:手のひらサイズで実車を再現したミニチュアカーです。手で動かすとエンジンの音がしてリアルに振動します。

エンジン音と振動は車種によって異なり、「エンジン始動時」、「空ぶかし」、「走行時」、「アイドリング時」それぞれに応じて変化します。

TOMICA
4D
トミカフォーディー



© TOMY



「共遊」のための配慮点:

- 電池ボックスを開くためのビス穴の周囲をリング型の凸で表示
- さまざまな車の形状をさわっても楽しめるように再現
- 音と振動でエンジンの鼓動を感じ、リアルな車の体感遊びが楽しめる

(2018年日本おもちゃ大賞 大賞受賞)



タカラトミーグループ「共遊玩具」のページ

タカラトミーグループのより詳しい共遊玩具情報は以下のURLにアクセスしてください。

www.takaratomy.co.jp/products/kyouyu/



IAUD 国際デザイン賞 2018 応募受付中

第1回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会開催のご案内

UD の普及と支援のために 2010 年に創設された「IAUD アワード」は、この度「IAUD 国際デザイン賞」と名称を改め、新たに審査基準も設定して募集を開始しました。

それに伴い、7 月 20 日(金)午後 2 時より、インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター(東京・赤坂)で、「2018 年度第 1 回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」を開催します。

当日は、審査委員会による審査体制や応募詳細についての説明のほか、「IAUD アワード 2017」受賞者によるプレゼンテーション、「2018 年度第 1 回定例セミナー」として UD 有識者による講演「持続可能な開発目標(仮)」も行います。

皆さまのご参加をお待ちしております。



2017 年度の説明会の様子
(東京・サンケイプラザ)

※「2018 年度第 1 回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」の申し込みはこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/activity/9988/>

※「IAUD 国際デザイン賞 2018」の詳細はこちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/9871/>



2018 年 7 月の予定

月	火	水	木	金	土	日
2	3	4	5	6	7	1 / 8
9	10	11	12 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン	13	14	15
16 海の日	17	18	19 13:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン	20 14:00～ 「第 1 回定例セ ミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」 @インターナ ショナル・デザ イン・リエゾンセ ンター	21	22
23	24	25 13:30～ 標準化研究 WG @IAUD サロン	26	27	28	29
30	31					

次号は 8 月上旬発行予定

特集:「2018 年度第 1 回定例セミナー／IAUD 国際デザイン賞 2018 説明会」開催報告、「IAUD アワード 2017」受賞紹介⑤ ほか

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階
電話:03-5541-5846 FAX:03-5541-5847 e-mail:info@iaud.net